

甲南学園の 新型コロナウイルス感染症対策

世界中で感染が拡大している新型コロナウイルス。本学園でも、授業や行事などさまざまな影響を受けていますが、日々状況が変化中、学園全体で対策にあたっています。

今号では、「甲南学園新型感染症対策本部」の谷向 豊総務部次長に感染症対策を、「2020年度新学業対策会議」の佐藤泰弘議長に大学の授業面での取り組みを、中高の感染症対策や授業への新たな取り組みについて、学園の現在の姿をお伝えします。

※掲載内容は取材時のものです。最新の情報はWebサイトをご覧ください。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19: coronavirus disease 2019)

2019年の終わりに中国湖北省武漢市付近に発生したのを皮切りに、またたく間に世界中に感染が拡大し、2020年3月11日には世界保健機関 (WHO) が、新型コロナウイルス感染症の流行を「パンデミックとみなせる」と発表。日本国内では、4月7日に東京、大阪、兵庫など7都府県に緊急事態宣言が発出され、同16日には対象が全国に拡大、解除まで約1か月半にわたり自粛期間が続く。8月末時点で、国内の感染者数は約7万名、死亡者が1,299名、世界では感染者が約2,500万人を超え、死者数が約84.7万人に上る。



【大学】

新型コロナウイルス感染症に関する最新のお知らせは、Webサイトをご覧ください。



【高中】

CONTENTS

01 特集[就任インタビュー]

人物教育率先の理念を
より高いレベルで実践する
意欲と経験に満ちた新たな布陣

08 第14代甲南学園理事長 長坂 悦敬

05 第18代甲南大学長 中井 伊都子

07 特集

甲南学園の
新型コロナウイルス感染症対策

09 甲南学園新型感染症対策本部
総務部次長 谷向 豊

11 2020年度新学業対策会議 議長
甲南大学 副学長 佐藤 泰弘

17 高中 Topics
甲南高等学校・中学校の新型コロナウイルス感染症対策
日々急変する事態にも、生徒ファーストを念頭に対応

19 平生凱三郎日記刊行記念シリーズ 特別編
スペイン風邪の猛威

21 なるほど!甲南アカデミア 経営学部 経営学科 教授 奥野 明子
テレワークの課題をひもとくと組織全体、
ひいては社会全体の課題が見えてきます

23 さまざまな分野の第一線で活躍する卒業生
It's KONAN Style
リア・カフェ オーナー 松山 里絵 さん

25 リカレント教育プログラムが始動
世界が激動する今だからこそ個人の質が問われている。
大学で「学び直し」しませんか?

27 KONAN TOPICS
甲南学園から“旬”のニュースをお届けします

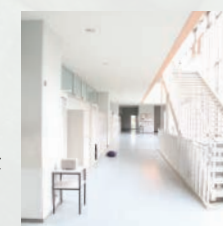
28 新任退任教職員紹介

29 [体育会座談会企画] 甲南大学×学習院大学
どんな環境でも前向きに、すべきことを!

KONAN FORUM

課外活動成果報告／新刊一覧 ほか

裏表紙 Campus Photo



表紙の1枚
放課後の校内
(甲南高等学校・中学校)

教育・研究を止めない そして学生のケアを重点に 即決・即実行で対応してきました

学園を横断する組織として、2月19日にいち早く設置された「甲南学園新型コロナウイルス感染症対策本部（以下、対策本部）」。実務部隊として動いてきた谷向 豊総務部次長にどんなことを重視し、どう対応にあたってきたか、今後の課題も併せて語ってもらいました。



甲南学園新型コロナウイルス感染症対策本部
総務部次長 谷向 豊

混乱を避けるため 情報を精査し、発信

国内で新型コロナウイルスの感染事例が相次ぐ中、2月18日に文部科学省から教育委員会や学校法人に対し、学内で感染者が発生した場合の対応について事務連絡が発出され、甲南学園はその翌日に対策本部を設置しました。以前から新型コロナウイルス等対策マニュアルを策定していたため、理事長・学長・校長を本部長とし、早急に対策本部を立ち上げました。

実務部隊として、まず私たちが取り組んだのは、混乱を招くことのないよう、文部科学省や兵庫県から届く膨大な情報を素早く精

査し、情報発信することでした。大学では、2月20日にはWebサイトに新型コロナウイルス感染症に関する内容を集約したページを立ち上げ、随時最新情報を発信。学生向けポータルサイト「My KONAN」においても、特に学生に関連する内容を中心にきめ細かに情報を出すよう努めました。

そして対策本部における喫緊の議題は、前に迫る学位記授与式（卒業式）や入学式をどうするか、そして新学期に向けた健康診断やガイダンスといった行事をどうするかということでした。学生のためになんとか節目の式典は開催したいというのが対策本部の思いでしたが、事態は深刻さを増すばかりです。課外活動の合宿やゼミ旅行の禁止を決定するなど、段階的に活動を自粛せざるを得な

いと判断しました。そして大学では2月28日に学位記授与式の一堂に会する式典を取りやめ、縮小実施を決定しました。ただ、細心の注意を払ったうえで、キャンパスでの学位記の受け取りは可能としました。学生生活最後に同級生との交流の場を提供でき、本当に良かったと思います。

刻々と変わる状況下 素早い判断・発表を

感染が拡大した3月・4月は、対策本部でも頻繁に会議を開きました。とりわけ3月3



日にアメリカのトランプ大統領が日本を渡航規制強化対象と発表した際は大きな議論となりました。当時はまだ社会全体の危機感が高くなかったものの、海外の状況が急激に悪化することを念頭に、3月4日に北米地域、17日にはイギリスへの留学プログラムの中止を決定。場合によっては学生の学びの機会を奪うことにもなりかねない非常に難しい判断でしたが、学生の安全を最優先し、渡航中止をお願いしました。

3月16日には、教育を止めない方策を模索するため、佐藤泰弘副学長を議長とする「2020年度新学期授業対策会議」を設置。対策本部と連携し、スピード感をもって対応した結果、Webを活用した授業の実施をいち早く決定。「My KONAN」のサーバを増強するなど1か月弱で準備を整えた結果、サーバダウンなどの影響がほとんどなく、授業を開始することができました。以後、大きなトラブルはありません。

4月1日、2日は新入生向けに学生証などの配付を岡本キャンパスで実施。甲南大生になった気持ちを少しでも感じてほしいとの思いもありました。当日は短時間で必要書類を渡す形式をとるなど、厳密な接触防止策をとりました。

そして4月7日、兵庫県・大阪府などに緊急事態宣言が発出されたことを受け、翌日には学生をキャンパス内原則立ち入り禁止とするなど、日々変化する状況や国の動向を受けて素早い判断・発表を行っていました。また教科書の販売を担う甲南大学生協では、対面販売を中止とし、Web注文後に郵送する対応に変更しました。

■ 新型コロナウイルスに関する主な動き（概要）

- 1月16日
[厚労省] ●日本で1例目の患者が発生と発表
- 1月29日
[外務省] ●中国湖北省が感染症危険情報レベル3に引き上げ
[甲 南] ●学生・教職員に対し、海外渡航の事前報告要請、一般的な感染症への注意喚起
- 2月18日
[文科省] ●「学校における感染症対策、生徒等に感染症が発生した場合の対応」発出
- 2月19日
[甲 南] ●甲南学園新型コロナウイルス対策本部設置、教職員へ再度注意喚起、対策マニュアル配布
- 2月20日
[甲 南] ●Web上での情報発信開始
●学生・教職員の中国（感染症危険情報レベル2地域）への渡航を禁止、帰国後の14日間自宅待機指示
- 2月21日
[甲 南] ●学内行事の原則延期、課外活動の合宿やゼミ旅行の禁止、懇親会の自粛要請
- 2月27日
[甲 南] ●学内行事の対応レベルを引き上げ（30名程度を超えるものや濃厚接触が想定される行事の中止）
- 2月28日
[政 府] ●全国の小中高へ休校要請
[甲 南] ●大学 学位記授与式の一堂に会する式典中止を決定
●教職員の勤務配慮周知
- 3月1日
[兵庫県] ●西宮市初の新型コロナウイルス感染者発生
[甲 南] ●西宮キャンパスに学生立ち入り禁止措置（3月4日まで）
- 3月2日
[甲 南] ●キャリアセンターによる3月以降の学内企業セミナー中止
●職員の出張中止または延期要請
[外務省] ●イタリアが感染症危険情報レベル2地域に
- 3月3日
[兵庫県] ●神戸市初の新型コロナウイルス感染者発生
[甲 南] ●大学 クラブ・サークル活動禁止（3月15日まで）
●高中 休校（3月14日まで）
- [外務省] ●トランプ大統領、日本が渡航規制強化対象の旨を明言
- 3月4日
[甲 南] ●北米地域への奨励留学・語学プラス交換留学・認定校留学（JSAFプログラム）の中止決定（5月2日出発まで）
- 3月5日
[甲 南] ●大学 一般入学試験（後期日程）実施
- 3月9日
[外務省] ●日本政府、中韓に発給済みの査証（ビザ）効力停止
- 3月11日
[甲 南] ●令和2年度入学宣誓式、授業開始までのガイダンスなど中止決定
- [WHO] ●「新型コロナウイルスはパンデミックとみなせる」との見解
- 3月12日
[兵庫県] ●神戸市、中学を25日まで、高校を23日まで休校
[甲 南] ●大学 クラブ・サークル活動禁止の延長決定（3月23日まで）
- 3月13日
[甲 南] ●高中 終業式（卒業式）の延期と休校延長（3月23日まで）
- 3月16日
[甲 南] ●大学「2020年度新学期授業対策会議」設置
- 3月17日
[甲 南] ●第1回「2020年度新学期授業対策会議」実施
- 3月18日
[外務省] ●全世界の感染症危険情報を「レベル1」に
- 3月19日
[政 府] ●専門家会議「感染拡大している地域は自粛要請の必要性を検討、一定期間、学校を休校にすることも一つの選択肢。収束に向かっていく地域ではリスクの低い活動から解除を検討」との提言



注意喚起や発表情報を集約した特設ページをWebサイト上に設置

感染拡大の予兆が見られるといち早く、Webサイト上に特設ページを設け、コロナ関連の情報を集約し、掲載しています。



学生の心のケアについて

学生相談室が特設サイトを立ち上げ、自粛期間に心にストレスを抱える学生をケアしました。また、キャンパスへの立ち入り禁止期間においても、電話やオンラインの遠隔、また完全事前予約制での対面相談を行いました。

海外留学・渡航について

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、留学中の学生には帰国指示、留学予定の学生には渡航中止をお願いするなど、大きな影響を受けました。日本に留学中のYear-in-Japan Program（以下、Yij）留学生も、当初は5月末までの留学期間を切り上げ、3月から4月に順次母国へ帰国しています。帰国後のYij留学生へのサポートとして、いち早く教員が動き出し、3月末にはオンラインでの授業を開始したため、帰国したYij留学生も母国にて授業を継続しました。

海外から日本へ帰国した学生者数	17名	渡航前に留学が中止となった学生者数	30名	日本から海外へ帰国したYij留学生者数	26名
-----------------	-----	-------------------	-----	---------------------	-----

今後へ向けての対応

世界の感染状況を見極めつつ、2021年度前期出発の留学プログラムの募集を開始しています。途中帰国や渡航中止、留学希望の学生に対しては「学内留学」と称して、オンライン上で海外協定校の学生とコミュニケーションを取ることができるオンライン交流プログラムや、留学経験のある学生と英語で取り組むアクティビティ（LOFTオンライン）、LOFTで活躍するLOFTアシスタントにオンラインで質問・相談ができる「LOFTともだちステーション」などさまざまな機会を提供しています。

※留学相談については、国際交流センターにて随時メールや電話、オンラインテレビ会議システムZoom（ズーム）で対応し、サポートしています。

学位記授与式を縮小実施

国内感染者数の増加や感染対策にともない、卒業生が一堂に会する式典を取りやめ、規模を縮小し、博士課程修了者、各学部・研究科の総代による学位記授与式を執り行いました。当日の様子は、インターネットでライブ配信し、参列を見送った卒業生たちもかけがえのない時間をともに過ごしました。



学位授与者数	
学部生	2028名
大学院生	64名
当日の出席者	26名
各学部・研究科の総代	
博士課程修了者	4名
学長表彰	7名
卒業生答辞	1名
在学生送辞	1名

希望者には学位記を郵送

通常、学位記授与式当日に受け取りができなかった卒業生は教務部（各キャンパス）で受け取り可能ですが、今回、希望者には学位記を卒業記念品とともに郵送しました。



学生のために第一義に引き続き対応に注力

対策本部が重点を置いてきたのは、「教育・研究を止めない」こと、そして学生生活支援（心の健康、キャリア、経済面など）です。状況が次々と変わり即決・即対応が迫られる中、決断の要となったのが「いま、この判断が将来に向けて学生のためになるのか」です。さまざまな意見がある中、対策本部のぶれない軸でした。

学生の心のケアについては、キャンパスへの立ち入りが制限される中でも、学生相談は受け付けている旨を発信し、学生相談室を閉めることはありませんでした。また学生相談室では、コロナ禍で不安を抱えている学生を支援する「特設サイト」もWebサイト内に立ち上げました。

キャリア支援については、6月下旬に学内企業説明会を再開し、7月末現在、オンラインテレビ会議システム「Zoom（ズーム）」や電話による個別相談のほか、4年次に対してキャンパス内での模擬面接を行っています。経済的なケアについては、対策本部で一律5万円支給を決定し、Webを活用した授業受講のための環境整備をサポートしました。また大学同窓会、父母の会からの多大な支援を受け、両会のサポートのもと「甲南大学2020年度特別給付奨学金（30万円）」を設けました。

学内の感染予防対策は、引き続き細心の注

意を払っています。正門やCommonsなどの各施設や各キャンパス入口で検温をできるようにし、体調不良者のキャンパス内への入構を制限。マスク着用・手洗い・消毒、三密回避はもちろん、ガイドラインに基づいた衛生管理を徹底しています。清掃業務を委託している甲南学園サービスセンターの多大な協力により、キャンパス内の施設は常に清潔に保つことができます。

こうしてなんとか前期を終えることができたのは、対策本部を中心に、各部門と綿密に連携できたからだと思っています。加えて、教職員が方針に前向きに協力していただけたことも非常に大きいです。また対策本部が指針を「示す」と同時に、学内の懸案事項に「答える」、情報のハブ機能を果たした点も混乱防止に有効だったと考えています。

後期に向けては、クラブ活動など、授業と同等に重要な「学生生活」についての活動再開が大きな課題です。たとえば文化系クラブの新生加入率は大変厳しい状況が続いており、体育会系クラブも段階的な活動再開を模索している状況です。このような状況は、少なくとも今後数年続くと想定し、「新しい生活様式」のもとでどういう形で再開・継続するかを探っています。さらに、2021年度入学試験も大学の大きな課題であり、対策本部では新型コロナウイルス感染症対策の面で引き続き動いていきます。予断を許さない状況が続きますが、今後も「Student First」を第一義に、関係部門と連携して取り組んでまいります。

Webを活用した授業を決定 全学が連携して前期を乗り切る 対面との使い分けが今後の課題

前期の授業をどう進めていくかを迅速に立案、実施していくために、3月16日「甲南学園新型コロナウイルス対策本部（以下、対策本部）」のもと、「2020年度新学期授業対策会議（以下、授業対策会議）」を設置。議長である佐藤泰弘副学長にお話を伺いました。



2020年度新学期授業対策会議 議長 佐藤 泰弘
甲南大学 副学長 佐藤 泰弘

学生・教職員の安全と学修機会を守るための決断

大学執行部の一員として、すでに学位記授与式・入学宣誓式などの危機対応にあたっていた私は、吉沢理事長（当時）・長坂学長（当時。現理事長）の要請を受け、学長担当の副学長として授業対策会議の議長を担当することになりました。

すでに入学宣誓式の中止は決まっていたのですが、4月8日開始予定の前期の授業をいつ、どのようにして始めるか、大学の方針として早急な決定・対応が求められました。そのときはすでに感染拡大が進み、通常開始ができないことは明らかでした。

学生の学修機会を確保するというだけではありません。たとえば開講が遅れたために前期卒業予定の学生が卒業できなくなることは絶対に避けなければなりません。

初回の授業対策会議（3月17日）は、新学期の授業開始を4月20日に延期すること、最初の2週間は30名以下の事前登録科目を対面で行い、それ以外はWeb活用授業を行うことなど、新学期の開講方針を決めました。この段階では緊急事態宣言が出されておらず、3週目以降は状況を見て柔軟な対応策をとれるようにと、対面授業に希望をつないでいました。Webを活用した授業の実施は、対面授業の実施可能性やリスクなどを検討していたおかげで、迷わず判断できました。全学生が「My KONAN」で履修

3月19日	〔 政 府 〕	●換気が悪い密閉空間、人が密集している、近距離での会話や発声の3条件が同時に重なる場所や場面を避けることが重要との提言
3月20日	〔 甲 南 〕	●4月末まで教職員の海外渡航を禁止、感染リスクが高い国内出張の自粛要請
3月21日	〔 甲 南 〕	●大学 クラブ・サークル活動禁止の再延長決定（3月31日まで）
3月23日	〔 甲 南 〕	●大学 授業開始を4月20日とすることを発表
3月25日	〔 甲 南 〕	●令和元年度学位記授与式の縮小実施、学位記の配付
〔 外 務 省 〕	●全世界に対する感染症危険情報「レベル2」を発出	
3月26日	〔 甲 南 〕	●教職員の首都圏への出張を極力自粛 ●全学生に対し、海外渡航禁止を要請 ●4月20日授業開始を想定した大学の取り組み概要を協議、学年暦の変更
3月31日	〔 甲 南 〕	●Webを活用した授業のための学内向けFD講習会実施（4月6日も実施）
4月1日	〔 甲 南 〕	●入学宣誓式・学内ガイダンスの中止 ●学内行事を原則自粛または延期 ●大学 クラブ・サークル活動禁止の再延長 ●大学 新入生向けに学生証など配付（4月2日も実施）
4月6日	〔 甲 南 〕	●新型コロナウイルス感染症に対する健康管理マニュアル周知
4月7日	〔 政 府 〕	●兵庫県・大阪府等に緊急事態宣言の発出（5月6日まで）
〔 甲 南 〕	●大学 教科書対面販売を中止、郵送に切り替え ●高校 5月6日までの休校、入学式・始業式の中止	
4月8日	〔 甲 南 〕	●学生のキャンパス内原則立ち入り禁止（8月1日より立ち入り制限へ） ●大学教員が授業実施を除いて自宅待機（6月21日まで） ●大学生協食堂の営業停止（6月5日まで） ●キャリアセンターのオンライン個別相談開始
4月11日	〔 甲 南 〕	●職員の出勤率を原則30％に設定
4月13日	〔 甲 南 〕	●高校三年生のオンライン授業開始
4月16日	〔 政 府 〕	●緊急事態宣言の対象が全国に拡大
4月17日	〔 甲 南 〕	●高校二年生のオンライン授業開始
4月20日	〔 甲 南 〕	●大学 Webを活用した授業の開始（7月末まで）
4月27日	〔 政 府 〕	●「特別定額給付金事業」（10万円）公表
4月30日	〔 甲 南 〕	●Webを活用した授業の受講にあたって「学修環境整備等支援費（大学5万円）」支給、大学の学費納付猶予期限を8月20日まで延長を発表
5月1日	〔 甲 南 〕	●高校 休校を5月31日まで延長
5月7日	〔 政 府 〕	●緊急事態宣言の延長（5月31日まで）
〔 甲 南 〕	●大学 図書館の郵送での本の貸出実施と電子書籍の利用拡大 ●オンライン授業の学習環境整備補助（補助費）（高校1万円）支給発表 ●職員の出勤率を原則20％に設定	
5月11日	〔 甲 南 〕	●高校 全学年オンライン授業移行

入学宣誓式を中止。中井学長より、新入生へのメッセージを配信

新入生を迎える予定であった4月1日、Webサイトに中井学長のメッセージ動画と「甲南大学Welcome Movie 2020」を公開。学長は、新しい甲南ファミリーの健康を気遣いながら、早く元気でおいしめようと新入生にメッセージを贈りました。また、Welcome Movieでは、公式キャラクター「なんぼーくん」のおすすめスポット紹介ほか、さまざまな教員、学生からのメッセージで、登学できない新入生へキャンパスの様子を伝えました。

【甲南大学Welcome Movie 2020】



【中井学長メッセージ】



就職活動を中心としたキャリア支援体制

キャリアセンターでは、学生のキャンパス立ち入り制限が始まった4月以降、大学に来なくてもキャリアサポートができるよう、体制を整えてきました。個別相談はオンラインで実施できるようシステムを構築。オンラインの個別相談だけでなく、電話やメールでも随時問い合わせに対応しています。また、本学に届く求人は独自の求人検索システムでどこからでも検索することが可能です。3年次以下の学生に向けては、インターンシップの申込手続きや事前研修のオンライン化のほか、キャリアガイダンスをはじめとする各種講座のオンデマンド配信を行っています。キャンパスへの立ち入り制限が緩和された6月以降は、就職活動中の学生を対象に、学内で企業説明会を開催。約10社の企業をお招きし、のべ約120人の学生が参加しました。そのほか、模擬面接も再開しています。キャリアセンターは学生のみなさんが納得できる進路を選択できるよう、今後も全力でサポートしていきます。



学生への各種支援

学修環境整備等支援費 ※一律支給

5万円

Webを活用した授業を受講する環境整備のための費用

甲南大学2020年度 特別給付奨学金

30万円

家計急変により修学が困難になった学生への奨学金 ※申請資格を満たす者

「常ニ備ヘヨ」 ～絆を深め、支え合おう！～

このたびの「特別給付奨学金」支援につきまして、同窓生からは「交流が重要な目的の一つである同窓会の活動に変化が強いられる中、学生支援予算を増やす能を切ったことは英断であり、力を発揮し支えることができた何より」などの意見をいただきました。この混迷の時代にどう向き合っていくのか。今改めて、平生飢三郎先生が遺してくださった「常ニ備ヘヨ」のことをばを胸に刻みたいと思います。

甲南大学同窓会 会長 丹羽 一郎さん

甲南大学2020年度 特別給付奨学金について

コロナの影響により、依然オンライン授業が中心となり、学生諸子の通学もならない状況が続いております。このたび父母の会より特別給付奨学金に協力させていただくこととなりました。もとより、みなさまからお預かりしております、浄財でございます。これで学生たちの不安が拭かれるわけではありませんが、一助として安心して勉学・人間づくりに励んでいただきたいと願っております。

2020年度父母の会 会長 大垣 利哉さん

登録を行っている実績が、判断の裏付けになりました。

第2回会議(3月26日)では学年暦を変更し、使用教室数のシミュレーション、授業実施における感染症対策などを検討しました。この時、ハンカチマスクの作り方、消毒方法を実演し、Webを活用した授業に向けたFD講習会の実施も決めました。

第4回会議(4月7日)は、緊急事態宣言の発出にともない、30名以下のクラスでもWebの活用を決めました。しかし人物教育には対面授業が重要であるとの考えから、対面授業の再開への希望を残していました。Web授業の延長を重ね、前期終了までWebを活用した授業の継続を決めたのは第6回(5月21日)でした。それと同時に緊急事態宣言解除後の緩和措置についても検討を始めています。

Webの活用に向けた準備と対面授業の一部再開も検討

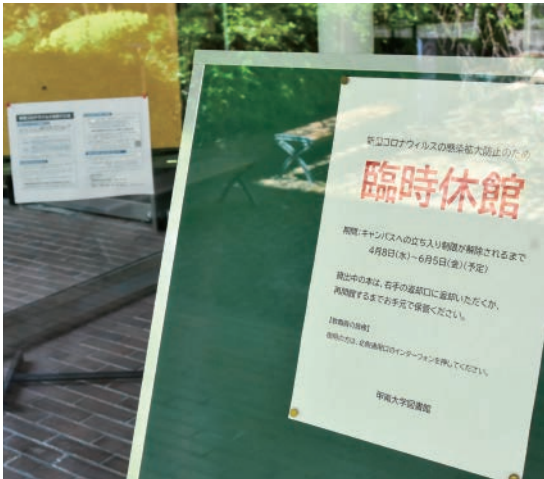
Webを活用した授業を実施するツールとしては、すでに導入していたOffice 365に加え、利便性の高さなどからZoomの採用を決定。Zoomの導入にあたっては、安全に使用するためのガイドラインをとりまとめ、学生・教職員に発信しました。

Webを活用した授業では、教育方法の専門家と情報系に強い教職員を擁する「教育学習支援センター」が大活躍しました。同センターは、4月に発足した全学教育推進機構のもとに置かれており、授業対策会議と円滑に連携でき

ました。動画による解説やメールでの個別相談など、学生の学びを細やかに支援しました。同時に、教員の授業をサポートするため、学内に簡易スタジオを設けたり、オンデマンドの授業づくりの相談に乗ったりと、教員への支援も担いました。

Web授業を開始するにあたり最大の課題は、学生・教員のインターネット環境が不均一な中で、大量のデータを送受信しながら授業が円滑にできるのか、という点でした。大学の回線増強は迅速に対応できました。しかし自宅に通信環境が整っていない学生やパソコンをもっていない学生もいます。そこで全学生へのアンケートを実施してパソコンの貸与を行うなど、学生への経済的支援を進める対策本部と歩調を合わせ、課題解決を探りながら対応していきました。

緊急事態宣言が延長されるなど日々状況が



変わる中、「対面授業をいつから始めるか」も授業対策会議における重要な議題でした。特に理系学部の実験はオンラインでは難しいことから、4年生は卒業実験ができず、大学院生は論文も書けないといった状態であったからです。また入学宣誓式もなかった1年生に甲南大生としての自覚をもってもらうためにも、登学して学ぶ機会の確保も重要です。

そこで5月25日の緊急事態宣言解除後は、まず大学院生の研究指導、ついで4年生と1年生の一部を登学可能とするなど、優先順位をつけ段階的に一部の対面授業を再開しました。ただしあくまでもWebを活用した授業が原則であり、ガイドラインのもと教員が申請し、対策本部が許可する形での再開としました。

前期の知見を集約し後期の課題に対応

前期は原則Webを活用した授業を行い、試験についてもガイドラインのもと一部をWeb上で実施し、ほぼ問題なく終えることができました。学生たちは初めての授業形態によく対応し、積極的に学んでくれました。

教員がWebの特長を活用した事例も多数あります。大教室で行う知識伝達型の講義はWeb授業に適しているのではないか、Web授業は繰り返し学習ができるなど、新しい授業形態の可能性も見えてきました。

前期を振り返るため、学生や教員を対象に行ったアンケートでは、幸いなことに前期授業への満足度は例年に遜色ありませんでした。

た。このアンケートも含め、前期に蓄えた知見を集約・共有して、後期に向けたより良い授業実施の方針を考えているところです。

一方、反省点もあります。たとえば各授業で課題が出るために全体として課題が過多になることや、学習のリズムを維持するのが難しくなることです。Web授業における改善点については大学として今回の経験をトータルに考えなければならぬと認識しています。

今後、高度情報化社会が進展し、パンデミック対策のみならず、大学教育においてWebを活用した授業が増えていくとも考えられます。重要なのは、Webと対面の適性を見極め、両方を機能的に使い分けて教育効果を担保することではないでしょうか。

今回、何より私たちが再確認したことは、「人物教育」を掲げる本学において、いかに対面授業が大切であるかです。知識を身につけるだけでなくWeb授業でも可能ですが、人物教育はそうはいきません。ことばにならない思いを伝え、学生個々のしぐさやことば遣いから個性をつかみ可能性を伸ばしていく。シラバスには記されていない日々の教育、つまり学生と教員とが互いに教える学ぶという関係が、人物教育を支えているのだと改めて気づきました。

後期については原則として対面授業を実施する方針を立てましたが、感染症対策を考えるならば、Webを活用した授業を併用していくこととなります。時々の状況に柔軟に対応できるような授業対策を進めていきたいと考えています。

- 5月16日
〔兵庫県〕 ●県内大学への休業要請解除
- 5月19日
〔文科省〕 ●「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』制度発表
- 5月21日
〔政府〕 ●兵庫県に対する緊急事態宣言解除
〔甲南〕 ●前期は原則Webを活用した授業を継続すること、一部科目については、段階的に大学での対面授業を実施することを告知
- 5月25日
〔政府〕 ●緊急事態宣言の全面解除
- 5月29日
〔甲南〕 ●大学同窓会・父母の会の支援により「甲南大学2020年度特別給付奨学金(30万円)」を発表
●高中 新型コロナウイルス感染症の影響にともなう家計急変特別支援奨学金(20万円)発表
- 6月1日
〔甲南〕 ●Web環境を理由としてほとんどの授業が受講できていない大学生への支援開始(PC貸し出し、大学の教室開放など)
- 6月4日
〔甲南〕 ●高中 授業を段階的に再開
- 6月8日
〔甲南〕 ●大学 一部対面授業再開
●大学 生協の一部営業再開
- 6月10日
〔甲南〕 ●大学 図書館の限定開館(大学院生、学部4年次、研究生、教職員を対象)
- 6月15日
〔兵庫県〕 ●兵庫県下の公立中高、通常授業を再開
- 6月16日
〔兵庫県〕 ●県内の新型コロナウイルス新規感染判明者が1か月間ゼロに
- 6月22日
〔甲南〕 ●職員の出勤率を70～80％に設定
●授業・研究活動に必要な出勤を除き、不要不急の出勤や国内出張の自粛要請
- 6月25日
〔甲南〕 ●4年次の学内企業説明会再開
- 7月1日
〔甲南〕 ●限定的に課外活動団体(体育会)の活動を再開
●4年次の模擬面接再開
- 7月14日
〔甲南〕 ●自宅にプリンタがない学生を対象に、コンビニエンスストアでのネットワークプリントサービス開始
- 7月17日
〔甲南〕 ●2府1県の1週間の新規感染者数が1日平均50人以上を超えたため、六甲アイランド体育施設でのすべての活動を停止
- 7月22日
〔政府〕 ●需要喚起策「GoToトラベル事業」開始
- 7月26日
〔兵庫県〕 ●新たに49人が感染し、4月以来の過去最多更新(当時)
- 7月27日
〔甲南〕 ●Webを活用した前期試験の実施(8月3日まで)
- 7月28日
〔甲南〕 ●2021年度前期出発「交換留学」「語学プラス交換留学」派遣留学生の募集開始
- 8月3日
〔甲南〕 ●高中 終業式実施
- 8月4日
〔甲南〕 ●夏期休業(大学9月24日、中高8月31日まで)
- 8月29日
〔甲南〕 ●夏期Webオープンキャンパス開催
- 9月1日
〔甲南〕 ●高中 2学期の始業式実施
- 9月25日
〔甲南〕 ●大学 後期授業再開予定

Webを活用した授業とは

普段学生が使用する<My KONAN>をベースにした授業は、授業内容に合わせて「オンデマンド授業」と「リアルタイム遠隔授業」の2つの形態で実施しました。

受講方法の種類	オンデマンド授業	リアルタイム遠隔授業
実施日程・期間	各授業科目の指定する期間(随時)	時間割の曜日・時限(または指定の日時)
受講方法	講義資料を読み動画を視聴し、課題、テストなどに取り組みます。	オンラインテレビ会議システム「Zoom(ズーム)」などにアクセスして受講します。

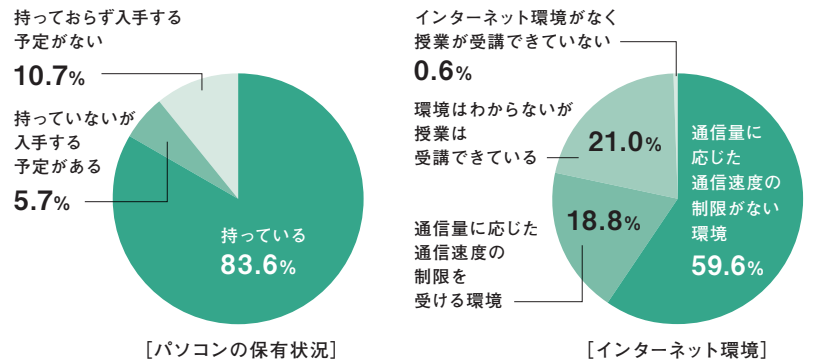
Zoomとは？

パソコンやスマートフォンを使って、オンラインでミーティングができるアプリケーション。複数名がリアルタイムで映像と音声でコミュニケーションできるほか、資料の共有やチャット機能を用いて質問なども可能なツール。

Webを活用した授業に関する受講状況調査を実施

アンケート実施期間：2020/05/11(月)～05/18(月)
対象者：8,697名(全学年)、回答者：7,556名、回答率：86.9%

授業開始後の約3週間後を目途に、My KONAN上で学生を対象にアンケートを実施しました。「インターネット環境がなく、授業が受講できていない」と回答した層やパソコンを保有していない層に個別に確認を行い、支援が必要と申し出た学生に、パソコンの貸出や大学内の講義室を一部開放するなどの対応を行いました。



感染予防策を徹底し、一部対面授業を再開

6月8日、大学で一部対面授業を再開しました。キャンパスへの入構時、正門で検温や手指消毒を行い、ICカードリーダーに学生証をかざし、入構を確認。各施設の入り口にも、消毒液とICカードリーダーを設置しています。



教室では、ソーシャルディスタンスを確保し、全員マスク着用のままで授業を実施。教室内には自分で座席と机を消毒できるよう、アルコール消毒液とペーパータオルを設置し、感染予防策を徹底しています。





Zoomで学生たちに いろいろ聞いてみました

- ▶ 知能情報学部 3年次 団野 和貴(だんの かずき) さん
- ▶ 知能情報学部 3年次 上田 省吾(うえだ しょうご) さん
- ▶ 経営学部 2年次 深山 望彩(みやま のあ) さん
- ▶ 経済学部 2年次 柳 優里(やなぎ ゆり) さん

キャンパスへの立ち入り禁止や、初めてのWebを活用した授業…。これまでに経験したことのない日々を送った学生たち。前期授業を終え、夏期休暇中の8月末、普段授業をサポートしてくれているラーニングアシスタントを務める4人の学生に、Zoomで今の状況を聞いてみました。

Q スタイホーム期間や現在の生活スタイルは？

- A. **団野さん**：基本的には自宅にいます。勉強したり、リフレッシュに近所を散歩して過ごしています。
- 深山さん**：海外留学や災害地のボランティアなど、コロナが落ち着いたときに行動を起こすために、英語のトレーニングや情報収集、資格取得の勉強など、充実した時間を過ごしていました。今は夏休みなので、アルバイトを再開しています。
- 柳さん**：スタイホーム期間は、普段時間が取れずできていなかったことをしていました。趣味のお菓子づくりや九州にいる姉との電話など…。今はアルバイトや習い事など、必要最低限の外出はしますが、外食は避けています。

Q 部活やサークル、アルバイトはどうか？

- A. **上田さん**：講師のアルバイトをしている塾が、コロナの影響でオンライン授業になり、担当する授業枠が増えました。週4日ペースでがんばっています。大学自治会で委員長を務めています。これまでは3キャンパス合同の連絡手段がなかったが、今回は機にオンラインの定例会をするようになり交流が深まっています。また、他大学との交流イベントもオンラインになったことで、かえて参加しやすくなりました。
- 団野さん**：大学生協でアルバイトをしていましたが、キャンパスへの立ち入り禁止以降休止中。生協主催の新入生向けオンラインパソコン講座の支援活動も終わり、今はバイトなしの状態。
- 深山さん**：柔道部のマネージャーをしているのですが、全国大会も中止に。部員は各自でトレーニングを続けながら、定期的なミーティングはオンラインで行っています。

Q みんなとのコミュニケーションはどうしてた？

- A. **団野さん**：コロナ前は、授業後に友だちとたわいのない話をし、そうした何気ない時間がすごく貴重だったと感じています。今は自分から声をかけ、LINEなどで友だちと雑談する機会を設けるようにしています。インターンシップの情報なんかもWebで調べると人から直接聞くのでは情報が異なるから、友だちとのコミュニケーションは大切。
- 柳さん**：電話やZoomを使って、久しぶりの友人との時間を楽しみました。オンラインはコミュニケーションを取らないよりはいいのですが、実際に会うことに勝るものはないと感じています。

Q Webを活用した授業について聞かせて？

- A. **上田さん**：オンデマンド授業は自分のペースで受講できるから時間が有効に使えました。プログラミング実習も問題なくできたけど、パソコンのスペックが低かった子は苦労したようで、先生からパソコンを借りたという話を耳にしました。また、先生によって課題提出の形式が異なるため、対応が大変でした。
- 柳さん**：企業の社長を務める卒業生の方から課題をいただき、グループワークで解決策を考える「プロジェクトゼミ」が印象的でした。対面でもディスカッションするのは大変なのに、すべてオンラインで苦労しましたが、最後は納得がいく成果を出せました。オンライン授業は通学がない分、時間の余裕がもて良かったのですが、パソコンと向き合う時間が長く、体力的にも精神的にも辛い時期がありました。

Q ラーニングアシスタントの活動は？

- A. **深山さん**：慣れない授業で、最初は1年生も私も緊張していたけど、徐々に互いに緊張せず友だちのように接することができました。当初、週2コマのサポートが、活動を通して自分を見つめ直す機会になり、楽しくて週6コマに。時間を有効に使えるオンラインだからこそ増やすことができたと思います。あと、サポートした1年生の履修登録の相談にも乗ることもありました。
- 団野さん**：オンラインでのファシリテーションには苦労しました。雰囲気をつかみとれず失敗したことも。ビデオオフで学生の顔が見えない中でやっているときは、「対面でしたい!!」とつくづく思いました。

Q コロナ禍が終息したとき、いちばんやりたいことは？

- A. **団野さん**：やっぱり大学に行きたいです。大学があったから、勉強はもちろん、ジムで運動したり、帰りに遊びに行くこともできた。コロナでそうした生活の基本が崩れてしまった。大学で1日を過ごしたいです。
- 上田さん**：先生に会いたいです。あと、ゲームセンターで好きなリズムゲームを存分にしたいです。
- 深山さん**：まずラーニングアシスタントの活動を通じて、オンラインで知り合った先輩や後輩、先生たちに会いたいです。あと、在学中にボランティアと海外留学は実現したいな。
- 柳さん**：友だちに会いたいです。友だちと一緒にいる時間がどれだけ大切な時間なのかを痛感しました。みんなと遠出をしたり、趣味と一緒に楽しんだり、大学生にしかできないことをたくさんしたいです。

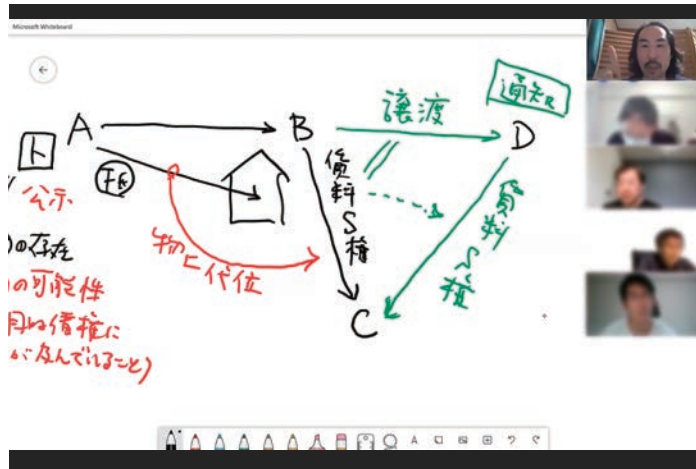


リアルタイム遠隔授業

科目名：民法演習Ⅰ(D) (前) 履修者数：13名

写真は法科大学院で民法の事例問題の解説をしているところですが、事例の分析・検討には作図が欠かせません。加えて、図は学ぶ側が自分で描けるようにならないと意味がないので、教員の手描きであること、展開のプロセスを見せられることが重要です。そこで、使い勝手のよさそうなホワイトボードアプリを見つけて、私がタッチペンで描き込む画面をZoomで共有して見てもらうことにしました。教室での板書と遜色ないようにできたと考えています。ただ、オンラインでは、資料から画面に目を移すべきタイミングや、画面のどこに次の一筆が入るのかを、受講者は認識しにくいと思われるので、ことばでの誘導の技術を身につけねばならないと思っています。

やまもと たかあき
共通教育センター 准教授 山本 貴揚



リアルタイム遠隔授業

科目名：演習Ⅰa (L1) (前) 履修者数：14名

「質の高い教育を学生たちに届けたい!」この熱意でリアルタイムZoom授業を展開しました。左のZoom画面は2年生ゼミ14人に、『万葉集』の名歌「春の苑 紅にほふ 桃の花 下照る道に 出で立つ娘子」の情景を絵に描いてみよう!と語りかけた時の画面です。[にほふ]とは?「桃の花」はどう咲く?「下照る」とは?学生たちは個々の表現に真摯に向き合い分析し、自分自身の手段とことばで説明しました。分析能力・分析結果表出能力は、卒業後の社会・時代を生き抜くために必要な能力です。学生たちはこの授業を通して上記能力を培い、感性を磨くことができました。学生たちのすばらしい将来の基盤を形成し得る教育を実践でき、教員として幸せです!

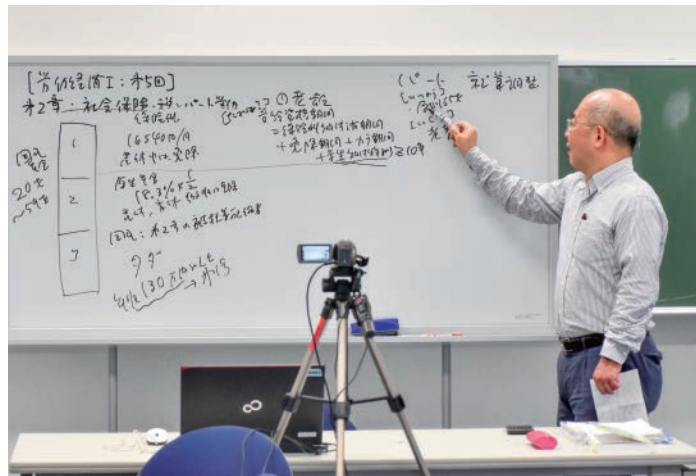
ひろかわ あきてる
文学部 日本語日本文学科 教授 廣川 晶輝

オンデマンド授業

科目名：労働経済Ⅰ(C) (前) 履修者数：371名

これは、税や社会保険、給料の決め方や残業時間など、職場で出合う制度やルールについて学ぶ授業です。話を書き取る練習として、授業の動画を観て内容を整理してもらいました。会議の議事録を作れるようになるでしょう。けれども、学生から「きれいな字で板書してください」というメールが来ました。課題を出すと、「解き方も教えてください」。学ぶ人と、教える私のスタンスの違いを感じました。返信で「(板書を)写して、覚えて、点を取る」より「(資料を)読んで、考えて、意見を述べる」という新しい日常を勧めましたが、実際には時間の制約から知識を授けて終わりました。オンラインで「きちんと考えるとはどういうことか」をどう伝えたいのか、目下思案中です。

うえしま やすひろ
経済学部 経済学科 教授 上島 康弘



● 甲南高等学校・中学校の新型コロナウイルス感染症対策 日々急変する事態にも、 生徒ファーストを念頭に対応

突然に直面せざるを得なくなった非日常は、日々刻々と様相を変え修学環境に影響を及ぼし続けました。そういったためまるしい事態にも即時的に対応し、生徒の安全と教育の質の維持を念頭においた、これまでの取り組みをお伝えします。



休校措置を発令後、 卒業式・入学式・始業式を 相次いで中止に

新型コロナウイルスの感染

が拡大の様相を見せ始め、政府から小中高への休校要請が出されたのが2月28日。それを受け甲南高等学校・中学校では、翌29日に3月3日から14日まで、最初の休校措置を決定しました。同時に休校期間中の期末考査ほか、学習合宿・クラブ活動など多くの行事・活動をすべて中止に。この時点では、15日の中学校卒業式は開催する予定にしていました。しかしながら感染は日々猛威を振るい拡大する一方。本校では生徒の安全を第一に考え、その状況を生徒・保護者にお知らせしつつ、その都度対応することとなりました。結果いつしか4月まで登校ができなくなりました。いよいよ新学期を迎えるにあたり、4月6日に山内守明校長から保護者宛に、8日からの入学式・始業式を時差登校によって実施する旨をお知らせするも、翌7日に政府から緊急事態

段階的に登校を解除し 高一・中1年生に 入学ガイダンスを実施

を整えました。

- 1 6月5日、中1生が1学期初めての登校
- 2 入学式の代替として、山内校長による講話の配信
- 3 新入生代表による「新入生のことば」
- 4 話に耳を傾ける中1生
- 5 ソーシャルディスタンスをとり着席



緊急事態宣言が解除される5月上旬まで登校が不可能になったことから、いち早くオンライン授業の実施環境を整備。従来より導入しているクラウド型の学習支援システム「MetaMoji Classroom」での課題学習に加えて、4月13日に高三年生、17・18日に高二・一年生に向けてZoomを用いたリアルタイム遠隔授業を開始。中学生についても同様で、配付された課題での学習や、学習支援アプリとオンラインでの教育支援を段階的に実施しました。その後、自粛期間の延長を受けて、5月31日までオンライン授業を継続することを決め、5月初頭に必要な学年にはiPadを配布、修学環境を整え5月11日から、高中全学年でオンライン授業が可能な環境

5月21日、緊急事態宣言が解除されたことを受け、オンライン授業は継続しつつ、一部登校型の学校再開を検討しました。密を避けるため学年ごとの分散登校を計画し、6月4日に高一年生、5日には中1年生に入学ガイダンスを行いました。これは中止された入学式を兼ねるもので、生徒たちはソーシャルディスタンスが担保された教室で、別室から配信される山内校長の講話に耳を傾けました。入学記念品として校歌を収録したCDが贈られたのに続き、新中学1年生代表、徳本琉希さんの新入生のことばで、ガイダンスは締めくくられました。なお、登校再開にあたっては、登校前の検温や手洗いの励行など安全のガイドラインを示し、手洗い場の増設や教室への網戸設置など、感染拡大を防止する修学環境の整備に取り組みしました。

生徒各々の学習環境を整え オンラインであつても 授業の質を確保し 個別に対応できる体制を整備

この間、担当教諭は試行錯誤と手探りでオンデマンド教材やオンライン授業のコンテンツ開発に取り組み、非対面型授業の質向上に努めました。同時に、生徒一人ひとりのペースに合わせて学習が進められる、個別型遠隔学習教材「すらら」の導入によって、さらに生徒の学習環境を整えました。長期化の様相を見せるオンラインでの授業にともない、オンライン授業の学習環境整備補助(通信費補助)1万円の一律支給を決定。一方、新型コロナウイルス感染症の影響にともなう家計急変特別支援奨学金を新設し、感染症の影響を受け困窮する生徒の修学環境の支援にも努めました。

オンライン授業の
学習環境整備補助(通信費補助)

1万円

新型コロナウイルス感染症の影響にともなう
家計急変特別支援奨学金

20万円
※申込資格を満たす者



科目名:英語(高一DE組・フロントランナー・コース) すぎもと ともあき 杉本 智昭 教諭

オンラインであっても学びの主体が生徒であることを心に留めながら、できるだけ対話的な授業を心掛けるとともに、家庭学習につながるような授業を行いました。オンライン授業では質問がしづらいという声があったため、授業後に質問を聞いた



科目名:国語(高二DE組・フロントランナー・コース) いけだ なつき 池田 直輝 教諭

全員で漢文の句法を暗唱して、画面越しにつながりを感じられるようにしました。また、生徒の迷いを減らすため、授業の「型」をつくり、授業の進行を、ある程度一定にしました。1枚のノートに、1つの質問を簡潔に記載しました。明確に視覚化することで、話題にしていることがはっきりと伝わるように心掛けました。



科目名:数学(中3a組) さかがみ たかりこ 坂上 貴彦 教諭

休校期間中、生徒たちはお互い会えないので、せめて授業だけでも「いつもの授業」と感じてもらえたら、と考えて授業に臨みました。リモート授業が始まった当初は生徒も緊張していましたが、回数を重ねるごとに「いつもの笑顔」を見ることができました。



科目名:体育(高二A組) はんだ あつし 半田 篤 教諭

体育の授業をオンラインで行うにあたり、ステイホームでの運動不足を解消するための実技ができるように考えました。ストレッチから始め、音楽に合わせてトレーニングやダンスを発信しました。生徒は楽しんで取り組んでくれたようです。ただ、Zoomのため、生徒の動きと反応が確認できないことが残念でした。

甲南のICT教育

メディア情報部 部長 橋本 昌洋 (英語科)

中高の教育のデジタル化とICT教育は、生徒一人ひとりがiPadやPCを活用し、知識や技能を習得し、思考力、判断力、表現力を身につけ、多様な人々と協働して学ぶことができる人物に成長することを目的としています。生徒は、学習支援システム「Classi」や「Feelnote」上で学習の自己管理を行い、ポートフォリオを作成して自らの学びを記しています。また、「MetaMoji Classroom」や「すらら」を活用し、学びを共有したり、個々の学力に応じて学習に取り組んだりしています。社会の急速なデジタル化とGlobalizationが進む中、教諭の授業も生徒の学びもさらに変化していくと感じています。

